



雲晴

新年号

「雲晴」第十七号

平成二十八年一月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番五
 電話 (03) 3627-3411
 FAX (03) 5699-5915

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

「一年の計は元旦にあり」の言葉通り、新しい年を迎える時の気持ちは大切にしたいものです。静かに心が澄んで気力が充ちれば、年頭に立てる計画も自分に合った自然なものとなるでしょう。欲に応じただけの目標では計画倒れのもと。また、人との和をはかる心がけがあつてこそ私達の願いもかなえられるに違いありません。どうか円満な日々をお送り下さい。「円満」とは、元来、仏教の「功德円満」「眷属円満」など諸願が成就円満する、という言葉を語源としています。空の月が少しずつふくらんで、まわく満ちるさまを見て、昔の人は「円満」ということの大切さを、人生になぞらえていたのかもしれない。欠けるところなく、穏やかに満ちたりている心、さまざまなお顔の表情を思い浮かべてみましょう。私達も「円満」を今年の目標にして精進したいものです。健康な毎日と

緩やかな思いやりこそ、そのための第一条件です。一日一日の静かな歩みが、心身共に豊かな一年を約束してくれるでしょう。

ところで、正月は七福神めぐりをされる方が年々増えているとのこと。七福神の一人、開運厄除の大黒さまに、福德を授けていただくにはどうすればよいかをおたずねしましたら、七つの条件を教えてくださいました。

- 一、喜んで働くこと。
- 二、信用を財産にすること。
- 三、節約の生活をする事。
- 四、笑顔とやさしい言葉を忘れないこと。
- 五、物でも心でも喜んで与えること。
- 六、「ご先祖さまのおかげ」「みなさんのおかげ」を忘れないこと。
- 七、正しい信仰に生きること。

だれにでもできる「福德を授かる七つの条件」、どうぞ実践なさって福德をいただいでください。どうぞ、よいお年を……。



●可能性を引き出す●

花川戸保育園では運動会で、鼓笛隊を披露しています。自信をもって演奏し、演技する姿を保護者の方々は楽しみにしています。当日は、すべて子どもにまかせ、職員は見守るのみです。子どもの秘めたる可能性のすばらしさには感心させられます。

しかし、披露するまでの道のりは長く、一年を通して、音感や姿勢など様々な課題に少しずつチャレンジしていきます。楽器の重さに慣れながら、毎日の積み重ねにより、我慢すること、

九品寺副住職・花川戸保育園園長

萩野順哉

協力し合うことを学びます。結果もたせつですが、それ以上に過程をたいせつに、低年齢児から楽しく練習が行えるよう、メリハリのある保育を行っています。

運動会の数日後には、楽器や衣装を次の学年へ渡す引継ぎ式を行います。子どもたちは自信満々の姿で最後の演奏をするのですが、一年間使って愛着のある楽器との別れという気持ちから、感極まり号泣する子もいます。その姿を見ていると、心の中までも豊かに育

ていきます。練習の経験からこそ経験の場を与え、秘めたる可能性を引き出すのは、周りにいる大人たちの役割と思っています。

まれていることに気づきます。練習の中で、自己との葛藤や忍耐、達成感を経験したからこそ、美しい涙を流すことができたのでしょうか。

小さいから「できない」「無理」ではなく、この時期だからこそ経験の場を与え、秘めたる可能性を引き出すのは、周りにいる大人たちの役割と思っています。

お釈迦さまも、様々なことに耐え、苦行を経験したからこそ、正しい教えを悟られました。お釈迦さまの教えが日々の保育に活かせるように、みんなで努め励みたいと思います。



民話の小箱 (山形県)

サル地蔵・悪知恵



むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

「おばあさん、弁当さ、つくっておくれ」と、おじいさんは、お弁当を持って山の畑へ出かけていきました。ここはだんだん畑で、よく、山ザルがきていたずらをするのです。

おまけにその日は、お弁当のにおいがするので、さっそくサルたちがやってきました。

「あれ、木の枝にごちそうがあるべ

と、みんなで、おじいさんのお弁当を食べてしまいました。

でも、おじいさんは知らん顔です。畑のまん中に、ジツとすわっていると、「あんれまあ、こんなところに、おじぞうさまがいるべ」

「こんなとこさ、置いてはもつたないおじぞうさんだから、あつちの山のお堂さ、運んでいくべ」

おじいさんをつぎあげると、♪えつさらほいほい ぬらすなホイ。

♪サルのおへそが 流れても。
♪おじぞうさんを 流すな ホイ。
と、歌を歌って川を渡りました。
(クッククック。おかしいけれど、だまつていよう)

おじいさんが、わらうのをガマンしていると、サルたちは山のお堂へおじいさんをつぎこみ、
「なんまいだぶ、おじぞうさん」と、たくさんのおさい銭をあげて、どこかへいつてしまいました。

「アハハ、これはゆかい」と、おじいさんは笑いながらお金を集めて、お堂を出ました。

「そうおばあさんに、なにか買うべ」おじいさんは町へ寄って、おばあさんの着物を買って帰りました。

一口法話



「五百匹の猿」

今年の干支は「申」歳。仏典「摩訶僧祇律」第七に、次の説話があります。

昔、ハラナ国城外の森に五百匹の猿が住んでいた。猿の王はある月夜にハンヤン樹の傍に古井戸を発見し、覗いてみると水面にきれいな月が映っている。それを見た猿の王は、「月が井戸に落ちていて、この月を拾い上げて闇夜をなくし、明るい世の中にしよう」と思った。「どうやってこの月を拾い上げるのか」と聞く猿の家来たちに、王は「先ずおれがこの樹の枝につかまるから、次に身体の大きいものがおれのしっぽにつかまれ。そしておまえたちは次々にしっぽにかまって井戸の中へ降りて、月に手が届いたものが月を引き上げるのだ」と言った。五百匹の猿たちは互いのしっぽにつかまり井戸に降りていった。

誘いの書へ

「大疑の下必ず大悟有り」 故林 錦洞書

行書で力強く書かれたこの作品は先代が八十三歳の時のものです。中国宋代の臨済宗を代表する名僧大慧禪師の言葉からのもので「今時の学道者は殆ど自分を疑って見るこ

事も大成しないということです。

貞林院瑞正寺 住職 林 清方

をしないで人任せだ」と戒めています。自分に何の疑いも持たず他人任せで使命感も責任感もないのでは大きな悟り、つまり何



世の中は今や情報時代となり、インターネットで何でも調べることができ便利な時代となりました。しかしこれら巷に溢れる過剰な情報の信憑性はと言えは怪しいものです。また新聞・テレビ等マスコミからの情報も政府の片棒を担ぐような報道であったり、あるいは特定の思想を後押しするようなものでありと様々であり、どこまで信用して良いものか分かりません。

新しい年を迎え、本年は物事を何でも自分の目で見て、疑わしいことは自分で調べて正しく判断するという心を心がけたいものです。

「おやまあ」と、おばあさんは大喜び。

ところが、それを見たとなりのおばあさんがうらやましがって、「うちのおじいさんもいかせるべ」と、お弁当をつくりました。

となりのおじいさんが、山のだんだん畑へいって、木の枝にお弁当をぶらさげておくと、サルたちは「きょうも、ごちそうがあるべ」と、パクパクパク。

「うん、うまくいったべ」となりのおじいさんは、大急ぎでおじぞうさまのまねをしました。

「おや、またおじぞうさまが、こんなところにいるべ。もつたいなや、もつたいなや」

サルたちが、おじいさんをかつき



♪えつさらほいほい ぬらすなホイ。♪おじぞうさんを 流すな ホイ。

と、歌って川を渡りはじめたのです。これを聞くと、おじいさんは、ガマンできずに吹き出してしまった。

すると、サルたちがビククリ。「キーツ、おじぞうおばけだ!」

おじいさんを川の中へほうり出して、逃げ出しました。

「たっ、助けてくれえ!」

さて、そのころおばあさんは、「おじいさんが新しい着物を買ってくるべ、たのしみじゃな」と、いま着ているふるい着物をかまどで焼いてしまったのです。

あんれまア：あとの祭りだど

おしまい

水面に接した猿が、月影をつかもうと手を伸ばしたその時、猿の重みで猿の王がつかんでいた枝が折れ、五百匹の猿はみな折り重なって井戸の中に落ちていった。

この説話は、天空にある本物の月と井戸の水面に映る影の月との虚実の判断のつかない愚かさを示唆しています。法然上人のお言葉に、「このごろのわれらは智慧の眼しいて、行法の足折れたるともがら」(浄土宗略抄)とあります。愚かな猿を笑えない私たちは愚鈍の身を自覚し、お念仏を申すことで、如来さまの船に乗り、この娑婆の荒海を乗り越えてゆく他に道はないのです。

総本山知恩院布教師会ホームページより



謹賀新年

寺内一同、おかげさまで元気に年を越すことができました。

今年も心を新たに精進いたしますので、檀信徒の皆様におかれましては、今後とも寺の護持興隆にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

申年の守り本尊は昨年と同じく大日如来です。無限の知恵と慈悲を持ちこの世に平和と繁栄をもたらすと云われておりますので、今年一年檀信徒ご一同さまの平安を心より祈念申し上げます。

平成二十八年丙申 元旦

貞林院瑞正寺

住職 林 清方
副住職 林 良政
法類総代 林 英道
同寺総代世話人一同

平成二十八年 年中行事のお知らせ

本年の行事につきましては、下記のとおり予定しております。近づきましたらあらためてご案内いたしますので、お誘い合わせの上ご参詣ください。

*春・秋彼岸会法要につきましては、あらためてご案内をしておりますが、お中日に塔婆回向をしておりますので、

ご希望の方は電話・ファックス、メール等によりお申し込みください。

*春彼岸会法要 三月二十日(日)
施餓鬼会法要 五月十四日(土)
七月お盆法要 七月十日(日)
八月お盆法要 八月十三日(土)
*秋彼岸会法要 九月二日(木)

第二十五世

錦洞上人七回忌を厳修

昨年の十月十日に先代である専蓮社行譽錦洞上人の七回忌法要を当山にて厳修いたしました。当日は法類であります善勝寺御住職日比野匡道上人を導師にお迎えし、葛飾部内の諸上人に法要をお勤めいただきました。

先代の遷化から早いもので六年が経ってしまいました。その間に檀信徒も約四百件と増え、墓地整備、本堂屋上の防水工事、山門塀及び駐車場の改修など寺の内外を整えることもできました。これらの事業も檀信徒の皆さまのご協力があったることと感謝しております。



法要後に日比野上人よりご挨拶

また毎年秋に銀座で開催しております「菽水清秀書展」も本年は先代七回忌を記念して遺墨三点を展示いたしました。今回は私と副住職の良政、善明寺住職である兄の英道、兄の二人の娘もそれぞれ出品させてもらい、七回忌の供養の意味も込めて林ファミリーの作品を並べることができました。これからも先代の名に恥じない寺づくりと書道にも精進したいと思っております。



東京銀座画廊にて展示された遺墨

◇これも仏教用語なの？◇

「堂々めぐり」

同じことの繰り返しで先に進まない様子を言いますが、元は仏教儀式として祈願や修行などでお堂や仏像の周りを僧侶たちが何度もぐるぐる回る様子からきているものです。